

4 三菱発祥の地
岩崎家舊邸跡

西区北堀江4-2(くすのきコーポ)

- ▶ 三菱創始者の岩崎弥太郎の邸跡です。明治維新後、岩崎弥太郎は三菱の前身となる九十九商會を明治3年(1870)に設立し、藩營事業である貿易と海運を引き継ぎました。翌年藩邸や蔵屋敷を買い取り、鴻池や錢屋など用達商人からの借入金も返済して担保を抹消しました。その後「九十九商會」から「三ツ川商會」。更には「三菱商會」へと社名を変更しました。岩崎家の家紋は「三階菱」、山内家の家紋は「三ツ柏」です。「三菱」は、この両家紋を重ね合わせて作られたものです。明治7年(1874)、本社を東京に移した際、岩崎弥太郎は西長堀の大半の地所・建物を大阪府に譲渡しました。しかし、土佐稲荷だけは引き続き三菱で守ることにしました。



岩崎家舊邸址の碑

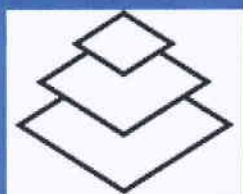


岩崎弥太郎

三菱マークの由来

九十九商會が船旗号として採用した三角菱のマークが現在の三菱の「スリーダイヤ・マーク」の原型となります。

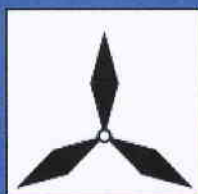
これは岩崎家の家紋「三階菱」と土佐山内家の家紋「三ツ柏」の組合せに由来します。後に社名を三菱と定める機縁ともなりました。



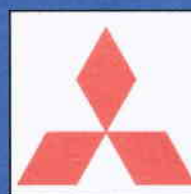
岩崎家家紋



山内家家紋



九十九商會商標



三菱マーク(スリーダイヤ)

岩崎弥太郎

土佐の安芸郡井ノ口村出身。地下浪人の低い身分でありながら、土佐藩参政 吉田東洋に入門を許可されました。慶応2年(1866)、長崎にある土佐商會に出仕し責任者になります。

その後、龜山社中が土佐藩の支配下となった「海援隊」の融資窓口となります。

明治維新後は、大阪に移り、三菱商會を設立する基盤を作ります。

明治10年(1877)、西南戦争時に三菱の所有する汽船のほとんどを軍用船として需要を独り占めにしました。

これによって巨額な利益を得ました。更に戦争終了後の軍需品の処分でも大きく儲けました。

明治14年(1881)、三菱にとって最大の保護者だった大隈重信が失脚し、岩崎弥太郎は三井家を支持する井上馨・渋沢栄一を敵に回し、共同運輸会社と死闘を繰り広げました。

奮闘中の明治18(1885)年2月7日、健康の衰えにより50歳で没しました。

5

司馬遼太郎旧居跡 小説「竜馬がゆく」執筆の地

西区北堀江4-2-40(西長堀団地)

- ▶ 昭和32年(1957)、旧日本住宅公団(現住宅都市整備公団)が建設した西長堀アパートは、通称「マンモスアパート」とよばれ、現在の「億ション」と同様な価値で、大阪市民の注目を集めました。このアパートは、東京の晴海アパートと対をなす都心部高層賃貸住宅の、最初の試みとして建てられたそうです。当初の入居者には著名人(作詞家の石浜恒夫、下着デザイナーの鴨居羊子、プロ野球 東北楽天イーグルス監督の野村克也など)が多く、作家の司馬遼太郎もそのうちの一人でした。司馬遼太郎の代表作「竜馬がゆく」は、土佐稲荷神社に隣接し、土佐藩蔵屋敷跡でもあるこのアパートに入居している時期に執筆されています。「竜馬がゆく」を執筆中、同時進行で執筆していたのが「燃えよ剣」です。



6

西長堀川と鯉座の跡

西区北堀江4

- ▶ 寛永2年(1625)に開削された長堀川は、東横堀川から分流して西に流れ木津川に注いでいました。長さ約2,441m、幅は上流で約45.3m、下流で44.3mあり、西横堀川以西が「西長堀」と呼ばれていました。昭和45年(1970)に埋め立てられました。西横堀川以西の西区地域には、東から吉野屋橋・西長堀橋・宇和島橋・西大橋・富田屋橋・上白髪橋(後の問屋橋)・下白髪橋(後の白髪橋)・鯉座橋・新鯉座橋・新玉造橋(後の玉造橋)・長堀高橋(後の高橋)・洲崎橋などが架けられていました。土佐藩の蔵屋敷は、鯉座橋とその西約144.8mの玉造橋の中間、西長堀川兩岸一帯を占めていました。鯉座橋はそのため土佐橋・土佐殿橋とも呼ばれましたが、もともと右岸に鯉座があったため、鯉座橋と名づけられました。司馬遼太郎の小説「竜馬がゆく」では、たびたび鯉座橋の名が出てきます。



7

鯉座発祥の地(鯉節問屋 山田屋跡)

西区新町4-9(グランドメゾン西長堀)

- ▶ 平成11年(1999)12月、積水ハウス株式会社建立の「鯉座発祥の地」の碑がマンショングランドメゾン西長堀の敷地内にあります。石碑には次のように記載されています。

西長堀川(昭和45年埋め立て)に架かる鯉座橋一帯には、土佐藩蔵屋敷の広大な敷地があり、右岸のこの辺りには土佐の名産鯉節の仲間取引をする鯉座があった。

また、もう一方の側面には、「宝暦2年創業。諸国鯉節問屋 山田屋跡地」とも記されています。



8

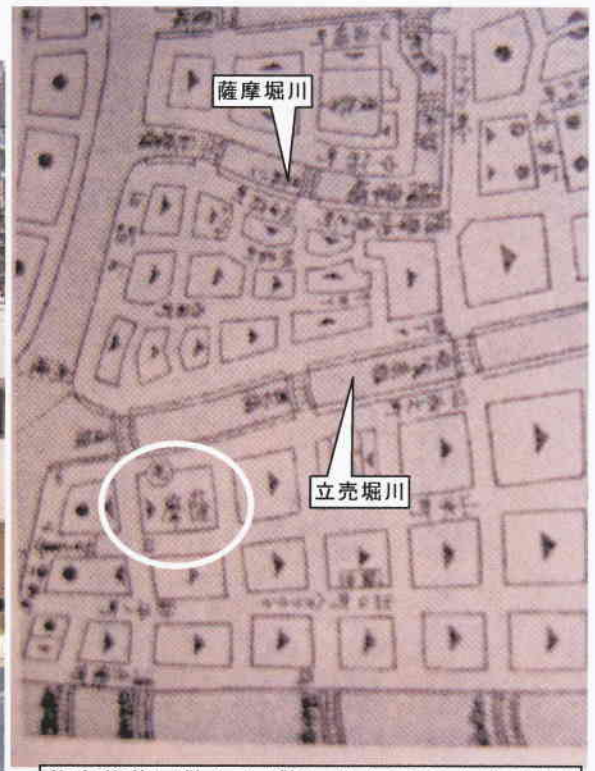
薩摩藩蔵屋敷(下屋敷)跡

西区新町4-12-19

- ▶ 薩摩藩の大坂蔵屋敷には、上屋敷・中屋敷・下屋敷・濱屋敷がありました。上屋敷は西区土佐堀2-3(現 三井倉庫)、中屋敷は、西区江戸堀3-6-49(現 マンション)で、両方とも石碑が建っています。下屋敷は、西区立売堀西の町(現在は西区立売堀5丁目)にあり、日生病院より南に100mほど行ったあたりに該当し、残念ながら石碑はありません。以前、立売堀川が東西に流れており、その川に架かる高橋の南詰にあり、古地図でも確認できます。新町遊郭に近いのか、下屋敷での宿泊を希望する藩士が多かったそうです。



薩摩藩蔵屋敷(下屋敷)跡



薩摩藩蔵屋敷(下屋敷) 文化3年の古地図より